# 杉原千畝の足跡を訪ねて 八百津の街と蘇水峡を歩く

中山道は御嵩の宿と、八百津の人道の丘に杉原千畝の足跡を訪ねようと友と12月8日出かけた。ところが.....

## 東海環状道路も土岐 JC を過ぎると対面通行

いつものように東浦 IC から知多半島道路に入る、朝の 8.00"は通勤時間帯でありかなりの混雑だ。湾岸から環状道路へ入り快調に走る、猿投山の下をトンネルでくぐりせと赤津 IC を過ぎる。ここからはまだ走ったことのない路線だ、しばらく走ると中央道と交差する土岐 JC を通過、ここから片側一車線の対面通行になる。

通行量からして一車線で十分対応が可能なのだ、ここが二車線になることはなかろう。可児御嵩 IC を出ると辺りは白い雪景色だった、今年初めて見る雪景色である。そんな景色を見ながら一般道を八百津へ向かう。

ナビがあれば音声ガイドに従って走るのだろうが、こちとらの車にはそんな洒落たものはない、ETC だけはついた。でも地図を見ながら案内標識を見ながら走るのも楽しいものだ。



杉原千畝記念館から見た八百津の街

木曽川に沿って走り兼山で川を渡り国道418~出る、ここからは「人道の丘公園」の案内にしたがって走ればよかった。

八百津の街を通り抜けて山の方へと進むと、道の両脇には雪の塊りが一杯だった。幸い除雪はされているのでいいようなものの、こんなに雪が残っているとは以外だった。

# 人道の丘に建つ杉原千畝記念館

八百津町出身の元外交官杉原千畝が、第二次世界大戦の混乱と激動の 欧州リトアニアの地において自らの危険と困難を顧みず下した、人間愛 に満ちた勇気ある決断に対し、その功績をたたえ後世に伝えるため記念 公園として人道の丘公園は建設された.....とある。

公園は千畝の出身地八百津の街が一望できる丸山ダムのほとり、緑豊かな丘の上にありモニュメントの周りは真っ白な雪に覆われていた。

ユダヤ人へのビザ発給により、約600人もの命を救った千畝の帰国 後は外務省を退職せざるを得ない厳しいものだった。

しかし、ユダヤ人の国イスラエルから二度にわたりその正義にたいし勲章を授けられた。昭和61年7月余生をおくった鎌倉で86歳の生涯を閉じた。死後平成3年10月3日に日本政府により44年ぶりに名誉を回復した。



モニュメント



モニュメントを背に

#### 命のビザ

千畝によってナチスドイツから逃れることのできたユダヤ人が、「命の 次に大切」と語る命のビザが展示されている。

### 千畝の肉声が聞ける

決断の部屋があり千畝の写真が掲げられた前に立派な机が置かれ、この イスに座りビザにサインすることができる。あなたも決断してくださ い!!というわけだ。

私もこの机で日付と名前を書いて日本国八百津の印を押した。その後ろの壁にはイヤホーンがあり、在りし日の千畝の声を聞くことが出来る。 その声はなんとなく優しい声に聞こえた。

### 千畝の決断が教えるものは

この記念館は訪れる人に、あなたは何を感じますか!! 今あなたは何ができますか!! と問いかけている。

そして、あなたにも「**努力. 柔軟さ. 勇気を持って行動すれば、将来においてきっと社会に貢献できる**」と訴えているのです。



杉原千畝の像と記念館



命のビザモニュメント

### 蘇水峡ハイキングに変更

記念館でもらったパンフレットを見たら、八百津のハイキングコースが載っていた。その中の蘇水峡ハイキングコースというのがなかなかいいコースで気に入ったので、予定を変更してここから歩くことに。

#### コース

人道の丘---丸山ダム---つり橋---新丸山発電所---蘇水峡---いかだの 歴史錦織網場跡---役場---人道の丘。

帰りの人道の丘まで戻るのがちょっと大変、車で登ってきた標高 110m もの山道を歩かなくてはいけない。でも運がよければバスに乗れるかも -----。12.5km 所要時間 3 時間 3 0 分だが、途中でコースをショート カツトもできるのでいつものようにのんびり見学しながら行って、役場付近へ食事タイムの 12.30"~13.00"に着くつもりでスタート。

# もう一つ造る丸山ダム



11.00"に人道の丘をスタートして丸山ダムに向かう、下り坂ばかりで気楽に歩くとほどなくしてダムの展望台に着いた。

すばらしい眺めである、ダムの白い堰堤がそそりたち満々と水を湛えている。紅葉はおそいものの美しい景色だ。その一角に案内板があり、今のダムの下流 45m に今より 25m 高いダムをもう一つ造るというのだ。おもしろい計画だと思った。展望台横にバス停があったのでダイヤを見てみると、一日に一本しか走っていない、これでは走っていないも同然。ここからさらに降りてダム湖の畔を歩きダムの上を歩く、下をのぞくと身震いがする高さだ。そのダムを渡り対岸を少し下って行くと、おかしな煙突のようなものが 5 本建っている。説明版があり見てみると、ダムを造るときの骨材プラントというものでコンクリートに必要な石をサイズごとに貯えておき、コンベァーで取り出すのだという。

### 川沿いのすばらしいハイキングコース

今度はつり橋を渡って戻る、ここから見るダムは圧巻でなかなかのコースで自然の醍醐味が十分に味わえる。

川沿いの道を行くと新丸山発電所があり、そこから先はよく整備されたハイキングコースが続く。



丸山ダムの上を歩く

大きな岩があちこちに姿を現し、寝覚ノ床を思わせる景観だ。それにまだ紅葉した木々もかなり見られる、日当りもよく風もないすばらしいハイキング日和になった。

しばらくするとトンネルがあり、そこを出ると蘇水峡の橋だ。またまたすばらしい眺めである。

### 錦織網場跡

林を抜けると川沿いの道からは発電所も見え、山の上には先ほどまでいた杉原千畝記念館の屋根がみえる。

そんな道を歩いて行くと「錦織網場跡」という案内板があった、見てみると木曽の山から切り出した材木は、ここで筏を組み尾張へ流送した場所というのだ。

隣には天然記念物のくろがねもちの大木がそびえている。おそらくその 当時の姿を知る生き証人なのだろう。

### 食堂を探して街中へ

ここからしばらく歩くと八百津大橋に出る、かなり長い橋だが幅はちょっと狭い。この橋からの眺めもまたいい、隣にはそれまで使われていたつり橋の柱が片側のみ残っている。もう一方はといえば川の中に倒れ

ていた。そこからはメインストリートを歩いた方がよかろうと、国道を歩いて役場をめざすがお店屋さんも少ないが、食べ物やさんは見当たらない。役場の所まできても見当たらない。しだし料理屋さんがあって聞くとラーメン屋さんが一軒あるという。

そこは先ほど歩いた地点からほんの少し先にあった。やっとお昼にありつくことが出来たのは13.00"だった。ラーメンと麦ご飯にニラと卵の炒め物がセットのランチ700円はまずまずだった。

店の人に人道の丘へ行くコミュニティーバスはあるか聞いてみたがない とのこと。こちらが相談していると、送りましょうかと言ってくれたが お断りして店を出た。

### 落ち着いた八百津の街

人道の丘まで 3.0km と少し登りの山道を考えて 1.5H くらいを想定しても 13.30"なので 15.00 到着とふんで出発した。

まずは役場へ寄ってパンフレットをもらい参考までに、人道の丘へ行くコミニュティーバスはあるか聞いてみた。そしたら運行されているという、次は14.55"にファミリーセンターを出る。やはりコミニュティーバスは運行されていたのだ。でも予定どおりハイキングマップに載っていた旧街道を歩いて、資料館辺りから山を登るつもりだ。

旧街道は木曽川に沿ってあり、あちこちに川へ降りる道がある。といってもその道は川に突き当たって止まっているのだ。昔は川を使っての水運が盛んだったことの証しだろう。それともう一つ気がついたのは、漆喰で塗った壁ではなく土壁で化粧?してある家が数軒あるのが目に付いた。珍しい造りで今まで見たことはない、そして酒屋もあった軒下に杉玉が吊り下げられておりすぐ分かった。なかなか大きな屋敷だった。



杉玉の吊下がる酒屋



紅葉の小路

街並みを外れたところに旧八百津発電所資料館がある、その手前で一人の老人が落ち葉をかき集めて掃除をしていた。こんにちはと声をかけると「よう八百津に来てくれた」と言いながら、「資料館もあるだよ」と寄って行くように勧められた。

しかし、その余裕はないのでお礼を言って先を急いだ。ほどなくして人道の丘への案内がでてきた、そこからは急な坂道がまっている。そのためここで小休憩にしてティータイムにした。腰を下ろしてお菓子をつまみお茶を飲む。かなり歩いてきたのでホッとする心地であった。

そして人道の丘をめざして最後の坂道を登り始める、とほどなくしてマイクロバスが走ってきた。町のコミュニティーバスだ、客は一人も乗っていない、止まって乗るように声をかけてもよさそうなものだがそのまま走り去った。今畜生.....でも良かれと思っても規則に反することはしない。杉原千畝の決断とはまつたく違うが、人のためにすることは善意と規則だけでは決められない。

やっと国道にたどり着いた、ここまで23000歩。奥様はここで車を待つことにしてダンナ二人はさらに登りの国道を歩く。記念館の屋根が見えてきてもなかなか着かない、道はくねくねと曲がりながら続く。

やっと人道の丘公園の駐車場が見えてきたときはやれやれと安堵したものだ、時間は丁度15.00"くらいだった。